

2002 年 05 コブ尾根

メンバー AH MS CN TS

5月2日(木)

21:30 夜行バス 岳沢ヒュッテまで同行 前穂高バ^ティー 7名と同行

5月3日(金) 晴れ(夜半より雨)

05:40 沢渡 上高地専用バスに乗り換え

06:30 上高地 着(先発 表銀座縦走の西倉と合流)

07:30 上高地発

10:30 岳沢ヒュッテ前 天場着 天幕設営

12:00 天場発 コブ尾根偵察行

コブ沢を500m程つめマイナーピークより落ちる右手のルンゼをつめる

14:30 コブ尾根 マイナーピーク着

16:00 帰幕

5月4日(土) 雨

03:15 起床

04:40 天場発

05:00 岳沢ヒュッテ発

コブ沢と別れ、クラックを縫うようにして、昨日偵察行でつけた右のルンゼのトレースを追う、ルンゼは詰めるほど傾斜を増しスリップは許されない、ダブルシャフトでグングンと高度を稼ぐ、やがてコブ尾根に繋がる小さな尾根状に這い上がり昨日の偵察終了点の這松を超えるとマイナーピークだ。

07:20 マイナーピーク着

昨日はよく見えていたコブもガスの中に霞む程度で判然としない、マイナーピークの西側を5mのアブザイレン 雪のナイフリッジ(10m)を渡りコブ沢側の雪壁を攀じる、もちろんトレースはなく、CL堀田の的確なルートファインディングとステップ工作が全く雪を纏わず黒々としたコブ岩へと我々を先導する。

10:00 前頃 コブ岩基部着

コブ岩の弱点は結構有りそうだが、雨水が岩肌を流れいやらしい、CL堀田はコブ沢側の這松帯を大きく(100m程)トラバースしたところでルンゼにルートを見出しザイルを出す、ロックハーケン2枚を打ち確保支点工作、4級マイナス 2ピッチ(結構いやらしい)を攀じて尾根上に這い上がる、コブ岩の最終は扇沢側にトラバースしたところに、確保用の残置ハーケンを見出し攀じりかけるも多少手強そうなので、正面の稜に戻り取り付きのワン

ポイントを確保で超え、50mで、(13:30頃)コブ岩のピーク(コブ尾根の頭ではない)に立つ、思いのほか時間を費やしたコブ岩だが目処は付いた、しかしガスの中ですぐ目の前に有るはずの、ジャンダルム、奥穂、前穂は全く姿を見せない。

雨は相変わらず降り続き、この頃には既に身体もすっかり濡れて、登山靴の中も水溜まりになり止ると寒く先を急ぐ。

扇沢側がストーンと切れ落ちた恐ろしいような岩のナイフリッジを渡り、3m程のクライムダウンで懸垂支店を見出し、20mのアプザイレで雪のナイフリッジ(10m)に降り立つ、ナイフリッジを渡ったところの雪壁は幾つものクラックが走り雪の状態も悪く、扇沢側にトラバースしてクラックを縫うようにして尾根上に戻る、後は雪壁、這松のブッシュ、雪壁の繰り返し、やがてガスの隙間からすぐ先にジャンダルムの凜とした勇姿を見出し縦走路が近い事を知る

15:30頃 コブ尾根の頭着

縦走路へ出た所に、縦走者のものらしき天幕が2張り、今日中の帰幕を急ぐ我々は休憩も摂らず天狗のコルへ向かう(最悪ビバークの用意は有るものの全身ずぶ濡れで暖かい天幕にどうしても戻りたい) 豊岩の頭を過ぎた当たりで一回の休憩、天狗のコルへの長い下りにかかる。

18:00頃 天狗のコル着

天狗のコル着にも縦走者だろう、1張りの天幕あり。

天狗沢へ突っ込み一直線に岳沢へ、豊岩側から大きなブロック雪崩が天狗沢の中に更に沢？を作っている、まだ落ちそうなブロックがありデブリは昨日のそれよりもまた増えている、デブリ帯を4人で渡るときには間隔を空けて一気に突っ切ったその時、下の方でブロックが落ちたのだろう雷鳴のような雪崩音が響く、クワバラ、クワバラ、やがて岳沢ヒュッテに程近いコブ沢を横断するときに見上げたその上には、我々が今朝通過したルートには無かったデブリが新たに出ていた。

19:10頃 帰幕

何とかデコラン無しで帰幕。

栃尾パーティー面々が、我々の無事帰還を喜び迎え入れてくれる。

天幕に入りコンロに点火見つめる炎に一息、ずぶ濡れで疲れたけれど満足、満足の日であった。

5月5日(日) 朝のうち雨、後晴れ

07:45 天場発 (堀田P 4名 栃尾P 8名)

09:20 河童橋着 岳沢方面を振り返りしばし休憩

09:50 上高地バスターミナル着